

あいち病害虫情報 最新情報

平成 25 年 5 月 16 日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

ムギ類の病害

ムギ類赤かび病の発生は、5月上旬及び中旬の調査では少ない状況です。気象予報によれば、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れる日が多い見込みです。このことから、赤かび病の発病穂からの二次感染は少ないと予測します。

5月10日発表の麦作管理支援情報第4号によれば、農林61号（出穂期：4月20日）の成熟期は、気温が平年並に推移した場合、6月9日（平年：6月6日）と予測されています。収穫期が近づいていますので、農薬を散布する場合は使用回数や収穫前日数に留意し、飛散防止にも十分注意しましょう。

果樹の病害

落葉果樹の生育は、春先に気温が高かった影響から平年より進んでいましたが、その後の気温は低く推移したため、現在のところ平年並となっています。ただし、その程度は樹種により違いがあります。連続した降雨があると、病害が発生しやすくなりますので、生育状況と天気予報に注意して、適期防除を心がけましょう。

強風を伴う降雨があったため、モモせん孔細菌病の発生が懸念されます。枝病斑は見つけ次第切除して適切に処分し、防除しましょう。

ナシ黒星病の発生が多く、幼果での発生も見られます。発病を確認したら、ただちに防除しましょう。詳細は、4月16日発表の「平成25年度病害虫発生予察注意報第1号」を参照してください。

ブドウ黒とう病は、梅雨明けまで降雨のたびに二次伝染し、発病が拡大します。昨年発生したほ場では、防除を徹底しましょう。

ブドウ晩腐病は、開花直前から防除適期に入ります。開花期の重点防除時期を逃さないようにしましょう。

果樹の害虫

フェロモントラップにおけるモモハモグリガの誘殺数は、今のところ少ない状況です。防除適期である第2世代がふ化する時期は、有効積算温度から昨年より早くなると予測されます。防除適期を逃さないように防除しましょう。

フジコナカイガラムシの生育は、有効積算温度から昨年並かやや進んでおり、5月下旬

に卵のうが発生すると予測します。ほ場で卵のうを見つけた場合、ふ化状況を確認し、防除適期であるふ化最盛期に、粗皮の隙間まで農薬がかかるように防除しましょう。詳細は、本日発表の「フジコナカイガラムシ情報第1号」を参照してください。

チャノコカクモンハマキのフェロモントラップにおける誘殺数は、平年よりやや多い状況です。防除適期であるふ化最盛期は昨年よりやや早いと予測されるので、防除適期を逃さないように注意しましょう。

チャノキイロアザミウマ第1世代成虫の発生ピーク時期は、昨年よりやや早いと予測します。ブドウでは、袋がけ前に防除を徹底することが重要です。本日発表の「チャノキイロアザミウマ情報第1号」を参考に、防除適期を逃さないようにしましょう。

キクの病害虫

露地ギクは定植時期に入っています。定植用苗は、白さび病などの感染がないものを用いましょう。

- 農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも洗いもれがないようにしましょう。
- 農薬は安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。
- 防除の際は、周辺作物に飛散しないよう注意しましょう。
 - ・ 防除面積や用途に応じた防除器具、散布ノズルを選択しましょう。
 - ・ 散布するときは朝夕など風の影響が少ない時間を選びましょう。
 - ・ 風向きに注意し、他の作物の方向に散布しないように作業しましょう。
 - ・ 飛散の恐れがあるときは、近接ほ場の生産者に連絡しておきましょう。

問い合わせ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室
TEL 0561-62-0085 FAX 0561-63-7820